

浜松市における検討会議に参加いただいた研究協力者等（敬称略、順不同）

【研究代表者、研究分担者】

犬塚君雄	豊橋市健康部長 兼 保健所長（研究代表者）
中瀬克己	岡山大学医療教育統合開発センター教授 （総括補佐、研究分担者）
金谷泰宏	国立保健医療科学院健康危機管理研究部部長

【研究協力者】

吉野篤人	浜松医科大学救急災害医学講座教授
鷺坂浩孝	豊橋市危機管理監
上杉裕一	豊橋市防災危機管理課課長補佐
上村安彦	豊橋市健康政策課課長補佐
深沢和代	静岡県西部健康福祉センター医療健康部部長
戸井口淳子	静岡県健康福祉部健康増進課専門主査
原田博子	NPO 法人 はままつ子育てネットワークぴっぴ理事長

【浜松市役所】

山下堅司	浜松市健康福祉部医療担当部長
西原信彦	浜松市保健所所長
板倉 称	浜松市健康福祉部参与（医監）
小石川邦夫	浜松市健康福祉部次長（健康医療課長）
島 和之	浜松市健康福祉部健康医療課課長補佐
大庭久和	浜松市健康福祉部健康医療課副主幹
矢嶋芳毅	浜松市健康福祉部健康医療課主任
辻村あつ子	浜松市健康福祉部健康増進課副参事
小池恒弘	浜松市健康福祉部保健総務課専門監
西崎公康	浜松市健康福祉部保健総務課副技監
高井伸浩	浜松市危機管理監危機管理課副主幹
岡田充弘	浜松市危機管理監危機管理課副技監
高井健太郎	浜松市環境部廃棄物処理施設管理課主任
大橋裕二	浜松市上下水道部上下水道総務課副主幹

災害時の被災市町村支援における地域診断項目とその活用に関する研究

研究分担者： 宮崎 美砂子（千葉大学大学院看護学研究科 教授）

研究要旨

本研究の目的は、災害時の被災市町村の保健活動支援に際し有用な地域診断項目とその活用方法を明らかにし、現場に有用なツールを提示することである。昨年度の本分担研究にて導出した地域診断項目（案）を、保健師向け研修等を通じて評価し、活用用途の具体化について検討した。

自治体保健師対象の災害研修（5箇所）受講の保健師のうち協力の得られた122名から、地域診断項目（案）の実用性、内容、その他（自由意見）について質問紙により回答を得た。その結果を踏まえ、「都道府県本庁」「保健所」「市町村」それぞれの保健師の立場において行う災害時地域診断の目的、方法、手段を、発災後の時期別に、「地域アセスメント」「ヘルスアセスメント」「リソースアセスメント」の観点から再検討し、それらの内容をアセスメントシートの体裁で、現場に資するツールとして作成した。

研究協力者

奥田博子（国立保健医療科学院 上席主任研究官）
春山早苗（自治医科大学看護学部 教授）
牛尾裕子（兵庫県立大学看護学部 准教授）
石川麻衣（高知県立大学看護学部 講師）
駒形朋子（前千葉大学大学院看護学研究科 特任講師）
丸山佳子（神戸市保健福祉局健康部地域保健課 計画係長）
中瀬克己（岡山大学医療教育統合開発センターGIMセンター部門教授）
岩瀬靖子（千葉大学大学院看護学研究科 博士後期課程大学院生）

A. 研究目的

本研究は、災害時の被災市町村の保健活動支援に際し有用な地域診断項目とその活用方法を明らかにし、現場に有用なツールを提示することを目的とする。

本年度の研究目標は、昨年度において本分担研究にて導出した地域診断項目（案）（表1）を、①保健師向け研修等を通じて評価する。②また、これらの活用用途を具体化できるよう、「標準化様式」及び「組織横断的かつ広域的な情報共有・活用の仕組み」を検討する（研究者間で協議する）ことである。

B. 研究方法

地域診断項目（案）に対して、自治体保健師122名から、紙面調査により評価を得た。具体的には以下のとおりである。

1) 調査対象（表2）

自治体保健師対象の災害研修（全国5か所）受講の保健師のうち協力の得られた122名

2) 調査方法：昨年度作成した地域診断項目（案）を、自治体が主催する、保健師を対象とした災害研修プログラムの一部に用い、研修終了時に受講者から①実用性：どのような状況（時・場）で役立つであろうか、②内容、③その他（地域診断の必要性・重要性についての考え）について、質問紙により自由回答を得た。

3) 調査時期：11月～12月

（倫理面への配慮）

調査計画について千葉大学大学院看護学研究科倫理審査委員会にて承認を得ると共に（承認番号26-41）、調査時には文書及び口頭にて調査対象者に趣旨及び遵守事項を説明のうえ参加の同意を得た。

表1. 災害時の被災市町村支援における地域診断項目（案）抜粋

○地域診断の観点：「地域アセスメント（地域の基本情報、被害状況、避難所等設置状況等）」、「ヘルスアセスメント（被災地・被災住民の健康状態、要援護者の状況、衛生環境等）」、「リソースアセスメント（被災自治体・医療等ケア機関の稼働状況、外部支援者の活動状況、現地の住民組織等の活動、組織・団体間の連携状況等）」
○地域診断を行う保健師の立場：「県庁」「保健所」「市町村」
○地域診断を行う時期：①発災直後の迅速評価（現地入りして24時間～1週間以内）※この時期の状況例：初動活動、②中長期にわたるモニタリング※この時期の状況例：健康被害の拡大防止、被害者の安全・安寧のために必要な対策・体制樹立、③復旧・復興期※この時期の状況例：仮設住宅等移転・保健活動の再構築

C. 研究結果（表3）

1) 保健師からの評価：全国5か所の災害時研修にて、合計122名の自治体保健師から以下の回答を得た。

①**実用性**：**「ありの意見」**「地域・ヘルス・リソースの3つに分けて、時期毎・所属毎に表になっている点
が分かり易い」「各時期の目的・手段の記載がある点分かり易く考えの整理ができる」、「災害時保健
活動マニュアルの作成・見直し時に役立つ」「保健師間で話し合うときに意識の共有として使用したい」
「優先順位の検討やもれがないかを確認するときに役立つ」など

「不十分の意見」：「マニュアルとの違いが不明確」「分量が多く活用がイメージしにくい」「体裁をアセ
スメントシートやチェックリストにする等の工夫を望む」など

②**内容**：「項目の具体内容があると分かり易い」「平常時の地域診断に落とし込めるよう具体的に表現し
てもらえるとイメージがわき各市町村・保健所で共同作業ができるのでありがたく例示を望む」、その他
各時期の追加項目など。

2) 地域診断項目の精査及び活用の具体化の検討

災害時の被災市町村の保健活動支援に際し有用な地域診断項目として、「県庁」「保健所」「市町村」
それぞれの保健師の立場において行う地域診断の目的、方法、手段を、「Ⅰ発災直後」「Ⅱ中長期」「Ⅲ
復旧・復興期」「Ⅳ平常時」の時期別に、「地域アセスメント」「ヘルスアセスメント」「リソースアセ
スメント」の観点から明確にした。アセスメントシートとしての体裁で整え、活用方法の説明を加えた
（表4-1～表4-3）。

D. 考察

1. 作成した地域診断項目の特徴

自治体の災害時保健活動マニュアルは、それぞれの自治体の関係部署において役割を具体的に方向づけ
る手順書であり、一般論というよりも、自治体の組織体制や地域特性を反映させた内容であり、関係職員
の共通理解を図るものとして作成されている。

一方、本研究において作成した地域診断項目は、各自治体のマニュアルの特性と比較してみると、汎用
性があり、各自治体でのマニュアルの作成や改訂、平時からの研修において役立ち、意義あることが明確
になった。

また、本研究において作成した地域診断項目の内容は、地域診断を何のために行うのか、つまり、「何
のために情報収集を行い、何に向けて判断し、どのような行動や対策につなげていくのか」というように、
地域診断の目的を合わせて提示したところに特徴がある。そのことについて、自治体保健師への意見調査
からも意義があるとの評価を得た。災害時の地域診断項目が手段や行為の羅列ではなく、目的や方向性を
意識して地域診断を行うガイドとしての項目提示が重要である。

2. 災害時と平時の地域診断の比較検討から捉えた災害時地域診断の特性

1) 災害時の地域診断における判断や意思決定の特性

災害時の地域診断は、特に初動期においては、＜迅速性＞が求められる。また＜少ない情報で判断＞し
なければならない状況下にある。「少ない情報しかない状況であっても、平時からの地域の理解を重ねる
ことで実態の推察でき、問題や対処について判断ができた」ということが先行研究の事例調査においても
確認されている[1]。また平常時の地域の理解が基盤にあつてこそ、災害時の情報の意味するところの理解
も可能となる。これらのことから、災害時の地域診断は平時からの地域診断と関連づけることで、有効な
ものとなるという特性があると考えられる。

また災害時には＜優先度＞の判断が求められる。つまり被害が広域で甚大であるほど、膨大なニーズが
生じ、優先順位を付けて対応していくことが必然の判断として求められる。

2) 管理的側面に顕在する災害時の地域診断の特性

平常時の保健活動における地域診断の思考プロセスは、まずニーズを明らかにして、その対応や支援の
ため、必要とする人員を配置したり予算を確保したりする。しかし災害時はニーズが甚大となり、見合う
だけの資源供給は困難であることから、資源の再配分が求められる。それゆえ災害時の地域診断は管理的
な側面にその特徴が顕著に現れる。外部からの資源調達を含めた、迅速な資源の再配分の判断が、災害時
の地域診断の中核を成すものと考えられる。

3) 平時から発災までの地域診断の3側面

災害時の地域診断は平常時の地域診断と関連づけて判断してこそ、有用な判断となることは前述したと
おりである。災害時の地域診断とは、その前提に、「平常時の地区活動としての地域診断」があり、さら
に「災害発生を見据えた平常時の地域診断」があつて、「発災後の地域診断」が存在すると捉えるのが望
ましいと考えられた。これら地域診断の3側面は互いに関連性をもつと考えられる。それぞれの内容は、
たとえば以下のようになると考えられる。

<例1>

「平常時の地区活動としての地域診断」の例：〇〇地区の地理・歴史の変遷について。

「災害発生を見据えた平常時の地域診断」の例：〇〇地区は、河川の蛇行を是正するため埋め立てられた
地区であり、過去にも豪雨災害時に浸水経験がある。

「発災後の地域診断」：浸水被害が生じ易いのは〇〇地区であるから、豪雨時にはまず当該地区の被災状
況を確認する。

<例2>

「平常時の地区活動としての地域診断」の例：〇〇地区の医療依存度の高い住民について福祉的な視点から数や要支援程度を把握している。

「災害発生を見据えた平常時の地域診断」の例：〇〇地区において災害発生時に問題が大きくなるのである要援護者の把握。災害時要援護者のリストアップと災害種別による支援の優先順位の判断。

「発災後の地域診断」：〇〇地区において発災後に支援の緊急性・継続性のある要援護者の把握。環境や資源との照らし合わせによる、支援の優先度の高い援護者や地域の判断。

3. 災害時地域診断項目の活用用途

自治体保健師への意見調査から、作成した地域診断項目の活用用途として、以下が有用であると考えられた。

1) 災害発生時におけるアセスメントのチェックリストとしての活用

所属機関の特性を踏まえ、災害発生時に保健師としての役割行動を方向づけるためのアセスメントのチェックリストとして地域診断項目を活用するという用途である。したがって様式は、県庁、保健所、市町村の所属別、また発災後のフェーズ別に、情報収集及び判断すべき項目、重要度の高い項目のリスト化が求められる。

2) 各自治体での災害時保健活動マニュアルの作成・改訂における活用

各自治体での災害時保健活動マニュアルの作成や改訂を行う際に、内容の充足に漏れがないかどうか確認したり点検したりするための参考資料として活用するという用途である。

3) 平時からの研修における活用

<災害時に向けた実践力の育成>、<平時からの地域診断の重要性の再認識及び保健活動の見直し>のための研修の際に活用するという用途である。研修において学んだ知識・理解を研修後に振り返り、知識・理解の定着を確認するための点検項目として活用するという用途である。

4. 作成した災害時地域診断項目の意義

災害時保健活動の課題の1つに、県庁、保健所、市町村の組織間連携がある[2] [3]。本研究により、保健師の立場別に災害時地域診断の目的、方法、手段、内容を提示できたことは、各立場の役割を相互に明確したうえで組織間連携促進及び活動推進に役立つと考えられる。

5. 今後の課題

災害時地域診断項目の特性及び汎用性を高めるためには災害時支援に関わる保健師以外の他職種との議論、さらに地域診断力を高めるための日常業務及び研修等への適用方法の更なる明確化が必要であり、活用可能なガイドあるいは研修プログラムが必要と示唆された。活用可能なガイドとしては、たとえば、自治体保健師への意見調査の回答にもあったように、アセスメントのチェックリストに、その解説を加えた形式などが工夫の一例として考えられる。

また今回は、地域診断を行う保健師の所属を県庁、保健所、市町村の種別により想定した。自治体保健師への意見調査の回答にもあったように、政令市に所属する保健師について、本研究結果をどのように応用して考えるべきか更なる検討が必要である。

E. 結論

災害時の被災市町村の保健活動支援に際し有用な地域診断項目として、「県庁」「保健所」「市町村」それぞれの保健師の立場において行う地域診断の目的、方法、手段を、「Ⅰ発災直後」「Ⅱ中長期」「Ⅲ復旧・復興期」「Ⅳ平常時」の時期別に、「地域アセスメント」「ヘルスアセスメント」「リソースアセスメント」の観点から明確にした。それらの内容をアセスメントシートの体裁で、現場に資するツールとして作成した。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

・島田裕子、春山早苗、宮崎美砂子、奥田博子、牛尾裕子、石川麻衣、駒形朋子、中瀬克己、岩瀬靖子：東日本大震災で被災した自治体保健師の災害時保健活動における地域診断の内容と情報収集方法。日本ルーラルナーシング学会誌、第10巻、41-50、2015。

2. 学会発表

・石川麻衣、川本美香、宮崎美砂子、奥田博子、春山早苗、牛尾裕子、駒形朋子、岩瀬靖子：自然災害発生時に保健師が行った地域診断の文献検討。日本災害看護学会、東京、2014年8月。

・宮崎美砂子、奥田博子、春山早苗、牛尾裕子、石川麻衣、駒形朋子、丸山佳子、中瀬克己、岩瀬靖子：災害時の被災市町村保健活動支援に有用な迅速評価項目の実証的検討。栃木、2014年10月。

H. 知的所有権の出願・取得状況

- 1 特許取得
なし
- 2 実用新案登録
なし
- 3 その他
なし

<引用文献>

- [1]宮崎美砂子、奥田博子、春山早苗、牛尾裕子、岩瀬靖子、大内佳子、松下清美、小窪和博、館石宗隆、塚田ゆみ子、松本珠実：東日本大震災の被災地の地域保健活動基盤の組織体制のあり方に関する研究。厚生労働科学研究費補助金 地域保健安全・危機管理システムの機能評価及び質の改善に関する研究（研究代表者 多田羅浩三）平成24年度分担研究報告書（研究分担者 宮崎美砂子）、1-40、2013.
- [2]山本勝：保健・医療・福祉のシステム化と意識改革。東京：新興医学出版社；1993.
- [3]宮崎美砂子：大災害時における市町村保健師の公衆衛生看護活動。保健医療科学、62(4), 414-420、2013.

表2. 調査対象の一覧

項目		事例1	事例2	事例3	事例4	事例5
I 研修の基礎情報	調査実施月日	11月21日	12月1日	12月6日	11月21日	12月11日
	研修の主催者	県（本庁）	県（本庁）	県保健師長会（公開講座）	県型保健所	市健康増進課
	研修の目的	災害対策のマニュアル作成のプロセスや作成後の地域での災害対策活動を通して、災害時の活動に活かせる平時からの保健活動について考える	災害初動体制の整備における統括的保健師の役割について学ぶ	災害時の受入体制整備を含め、災害時保健師活動マニュアルの見直しとともに、平常時から危機管理意識を持った保健活動の重要性を学ぶ	地域診断に基づいてPDCAサイクルをまわしながら地区活動を展開する方法を、事例をとおして学ぶ	保健所の統括保健師及びリーダー保健師が、あらゆる災害において効果的な保健活動を推進するために必要な体制整備、活動計画立案、職員管理、コーディネート等の総合的な実践能力、平常時行うべき活動を推進するために必要な知識・技術を習得する
II 研修の特性	1. 受講する保健師の特性 ①同じ市町村の保健師 ②同じ保健所管内の保健師 ④同じ都道府県の保健師 ⑤同じ都道府県内の保健師 ⑥近隣ブロックあるいは全国の保健師 ⑦その他	⑤県内保健所、本庁、市町村の保健師及び保健衛生福祉関係職員	⑤保健所及び市町村の統括的立場にある保健師	⑤⑦	②同じ保健所管内の保健師（保健所保健師・市町村保健師）	①同じ政令指定都市の保健師（統括保健師保健所主査、リーダー保健師、災害保健活動担当保健師、県庁保健師統括部門保健師
	2. 想定する災害地域の特性 ①市町村単位 ②保健所管内 ③都道府県単位 ④近隣都道府県ブロック ⑤全国（不特定） ⑥その他	南海地震を想定 ③都道府県単位 ④近隣都道府県ブロック	①②	①②	①②	①市町村単位（各区）
III 地域診断項目案の研修時の提示方法	1. 目的 ①研修の講義内容として活用（知識の理解） ②研修の演習内容として活用（知識の運用） ③研修の評価内容として活用（知識の評価）	①研修終盤に情報提供として実施	①研修終盤のまとめの講義として使用	①研修終盤のまとめの講義として使用	①研修内容の発展・補足として使用	③研修終盤のまとめ講義として使用
	2. 取り上げた地域診断項目（案） （1）保健師の立場 ①市町村保健師の地域診断項目 ②保健所保健師の地域診断項目 ③県庁（本庁）保健師の地域診断項目	①②③	①②③	①②③	①②	①②③
	2) 地域診断項目（案）の時期 ①発災直後の迅速評価 ②中長期にわたるモニタリング ③復旧・復興期 ④平常時	①②③④	①②③④	①④	①②③④、特に④	①
IV 回答者の概要	①市町村	回答者（人）	11	27	3	14
		経験年数（平均年）	17.6	23.0	22.7	12.4
		被災地での活動経験ありの人数（人）	1	4	2	1
	②保健所	回答者（人）	1	7	11	3
		経験年数（平均年）	27.0	28.0	27.4	14.0
		被災地での活動経験ありの者	1	3	8	1

	(人)					
③都道府県(本庁)	回答者(人)	0		3		
	経験年数(平均年)			25		
	被災地での活動経験ありの人数(人)			2		
④(精神保健センター)	回答者(人)			1		
	経験年数(平均年)			13		
	被災地での活動経験ありの人数(人)			0		
上記①～④の計	回答者(人)	12	34	18	17	41
	経験年数(平均年)	18.4	24.1	24.2	12.7	
	被災地での活動経験ありの者(人)	2	7	12	2	30
全事例合計	回答者(人)	122				
	被災地での活動経験ありの者(人)	53 (43.4%)				

表3. 災害時の地域診断項目アンケート集計まとめ(○小見出し、・アンケート記載意見)

1. 実用性について

実用性ありの意見

○マニュアルに添付し、マニュアルを具体化するものとして役立つ

- ・マニュアルは概念的なもの。しかし、この地域診断項目があるとより具体的に何を考えたらよいか理解できる。
- ・時期活動のポイントがわかりやすく、いざという時に活用できるよう、マニュアルの中にこの地域診断を取り入れた。
- ・マニュアルにのっていると、記録紙・チェックリストと合わせて見ることができるので、役立つ。
- ・自治体のマニュアルに入れておこうと思った。
- ・今後、県で作成しようとしているマニュアルに時期に応じた「地区診断シート」のようなものを入れておくと思った。自分の整理のためにも。
- ・災害時保健師活動マニュアル、地域防災計画は読み込まないとどこを見ればいいのか探すことになるが、一目でわかる利点大きい。平常時から見慣れておくことができる。

○活動の優先順位の検討やもれがないかを確認するときに役立つ

- ・マニュアルは細かいので、優先順位をたてる際や、もれていることを確認する際に役立つ。
- ・災害時は迅速な対応、判断力が求められるので、優先順位を考えるのに役立つと思う。
- ・災害時の混乱の中で、対策にもれがないかどうか大きく見直すツールになると思います。チェックリストとして有用。
- ・発災時にもチェックしながら使えること、コンパクトにまとまっていてよい。
- ・発災直後の混乱期や、中期で地域の状況を改めてアセスメントする必要がある時期に役立つ。
- ・災害時の保健師としてやらなければならないことが項目でわかれており、実際の活動に役立つためチェックリストとして役立つ。このようなチェックリストがあるとありがたい。
- ・発災時のチェックリストとして使っていきたい。
- ・実際に災害が発生すると、自分たちも混乱すると思う。そのようなときにそれぞれの部署が確認すべきことのチェックリストとして活用するとよいと思う。
- ・発災直後に自分が見落とししていることがないかチェックリストとして使用できるとありがたい。
- ・平常時の準備として不足していることはないかチェックリスト的に使いたい。
- ・非常に混乱する発災後の状況では、見落とししてしまうこともあると思うので、一覧チェックリストで確認できるのが良い。
- ・災害時、落ち着いて考えられる状況でないと思うので、このようなチェックリストがあり、活用できれば有用と考える。
- ・各段階の時期にやるべきことを確認したいとき、または平常時各業務の認識を共有しておく際に有効である。
- ・実際に災害が起きた時の活動指針としても使える。
- ・どこをポイントにしてみたらよいか参考になる。
- ・災害時における支援体制づくりに向け、保健師個人はもとより、自治体の保健師活動の中で役立つと考える。

○情報集約に役立つ

- ・情報をまとめるにあたり、実用できそうな感じはうけとれる。
- ・この項目をもとに、各保健師が得た情報を集約できる機会になる。
- ・平常時（地区）活動の目安や情報収集の視点が役立つ。
- ・地域の情報収集アセスメントなくしては、発災時の適切な支援活動はできないので、その意味でもこのツールは標準化した取り組みのためにも重要と思う。

○フェーズに応じた活動推進に役立つ

- ・フェーズに応じて、項目があがっており、とても参考になる。
- ・災害時（各フェーズ）にどんな情報をどのような手段で得ることができるのかが一目で分かるのでよい。
- ・ステージごとにわかれている、わかりやすい。市でのマニュアル作成の参考にさせてもらう。
- ・各フェーズにおいて、ゆっくり考えることができたので、保健師のみならず、関係部署に復命したい。具体的な企画、計画、対策ができそうである。
- ・それぞれの時期に活動を考えていく時に押さえるポイントになると思う。
- ・時期Ⅰの混乱している最中でも要請人員の把握、継続すべき業務の判断を的確に行うことなど、まずはマニュアルの中にとり入れていきたい。
- ・時期Ⅱのロードマップを作成する、の視点はなかったのととり入れていきたい。
- ・発災直後から役立ちそうである。

○平時から考えておくべき備えの視点として役立つ

- ・薄れやすい防災意識を高める機会となる。
- ・いつ起こるか分からない災害時に何をすれば良いかを、学び、考える機会の際に役立つ。
- ・平常時に被災時を想定する時に役立ち、平常時の備えにつながる。
- ・平時から考えていかなければならないこととして、理解できる。
- ・いつ起こるか分からない災害時に何をすれば良いかを、学び、考える機会の際に役立つと思うが、普段から考えておく必要がある。
- ・平常時の災害準備の時に役立つ。
- ・平常時から必要な情報を得ておく必要があることが分かった。
- ・平常時から目を通すことで意識UPにつながると思う。

○地域・ヘルス・リソースの3つに分けて時期毎、所属毎に表になっている点分かり易い

- ・地域・ヘルス・リソースの3つに分けて時期毎、所属毎に表にされているのは分かり易い。
- ・大項目―地域アセスメント、ヘルスアセスメント、リソースアセスメントとわかれているので良い。
- ・立場や時期に応じて、やるべきことが分類されていてわかりやすい。

○各時期の目的・手段の記載がある点分かり易く考えの整理ができる

- ・各期の目的がはっきりとして、その手段も記載されているので使える！と思った。考えを整理する材料になる。
- ・平日頃から危機意識を持つために系統立てて様式化されているので、見やすい。

○関係者との共通理解を図るためのイメージづくりに役立つ

- ・災害時については、実際おこった時に視点をおいて動けるかはわからない。ただ、災害前に、保健師等の専門職だけではなく、各課の関係者と情報共有をしておくことで、実際活動するときのイメージがもてそうだった。
- ・平常時（災害時）にすべきことの市職員全体での統一化に役立つ。
- ・災害時保健活動マニュアル策定に向けての意識統一、課題（弱点）の認識に役立つ。
- ・保健師の活動を、部・課内の行政職や上司、災害対策本部運営の危機対策室等に提示できる資料となる。
- ・基本的な考え方を上司に伝えていくことができる。
- ・保健所内で保健師とそれ以外、事務所等含めて、支援の動きの共通理解をするのに役立つ。
- ・初災時、参集した職員に限られ、組織の管理職もない中で、何をしたらいいのか知るのに、かなり役に立つと思います。しかし、保健師だけに周知するのでは、保健師以外の職員の協力を得ることは困難なため市の防災計画に乗せる必要がある。
- ・平常時に現状を整理したり、共有したりするのに役立ちそうである。また、県と一緒に整理することが連携の一助になりそうである（今は災害についてのやり取りはない）。

○災害時保健活動マニュアルの作成・見直しに役立つ

- ・各自治体の災害時保健活動マニュアルの作成又は見直しの際に役立つ。
- ・災害にあった時に本項目を確認しながら動くのは難しいかもしれないが、マニュアル作成時には資料として使える。
- ・実際の災害時だけでなく、今後の活動マニュアル作成に役立ちそうである。
- ・災害マニュアル作成時、活用できる。
- ・防災マニュアルの作成時に役立つ。

- ・活動マニュアル策定の際に。
- ・マニュアル策定に役立てる。
- ・今後のマニュアル作成に大変参考になる。今後、改訂予定の災害時保健活動マニュアルに入れたい。
- ・今後マニュアルを見直していくので、そこに入れこみたい。
- ・保健活動マニュアルを作成、見直す際に役立ちそうだと思う。
- ・マニュアルを今後作成予定なので参考にしたい。
- ・市での保健師活動マニュアルを改訂するときに役立つ。
- ・日々目の前の仕事に追われ災害時どうするのか？という意識は無い（うすい）ように感じる。これらの項目一つ一つを各自治体、全体で検討したいと思う。
- ・6～7年前に策定した市のマニュアルはあるが、見直しの必要性が必至であることを再確認した。見直す時に非常に役立つ。

○保健師間で話し合うときに意識の共有として使用したい

- ・平常時、保健師間で災害時保健活動について話し合う際に意識の共有として使用したい。
- ・当市は災害時活動について検討するチームを組んでいる。日頃の活動はあまりできていないが、チームの勉強会で見直してみたい。

○災害時活動について再考する際に参考となる

- ・災害活動について再考する際に確認できるものとして参考になる。
- ・毎年活動計画を立てるときに、自分の担当地域の災害支援をどうするか、考える材料になる。
- ・災害対策への見通しを持つ媒体として使用できる。
- ・こういう視点が必要なのかという気づきの促しにつながると感じた。

○研修会・人材育成に役立つ

- ・研修や自身の頭の中を整理するのに役立つ。
- ・普段の地域診断の考え方と発災時に必要となってくる地区への視点や必要な情報は異なる部分もあるため、本案のように項目別で一覧になっていることで若手の保健師や災害対応の経験のない保健師の助けや学びの教材となる。
- ・災害研修会としての取組みとしてまず参照したい。
- ・研修等で活用できると考えられる
- ・平常時に災害時を想定することが難しいので、研修の材料として用いるとよい。
- ・研修時には具体的な視点が多岐にわたり、盛り込まれていて知識・理解を高め、シュミレーションするのに有効。
- ・災害研修時どう動いてよいかの目安になる。
- ・研修での概要説明であれば、このシートでOK。
- ・職場でのシミュレーションの場、いざ災害が起きたときに役立つ。
- ・自治体や地域の防災（避難）訓練（保健師は地域診断をして臨む等）に役立つ。
- ・研修で使用するとイメージがわいていいと思う。
- ・演習ができると、このような項目がより役立つし、訓練になる。
- ・平時の時、マニュアル策定時にもりこみたと思った。それに基づき、机上訓練を繰り返したい。

○その他

- ・【自治体の防災訓練等の機会を用いた情報把握】はよい機会だと思う。所属自治体では、保健福祉分野が防災訓練に関与していないので、防災訓練関係課との共通認識や協力・連携が必要。
- ・リストアップ対象とする要援護者を検討する時に役立つ。
- ・【市町村地域防災計画の内容理解】【健康に影響を及ぼす可能性のある施設】は自分の中であまり意識化されていなかったが、日頃の地域診断の中で把握する必要があると思った。
- ・派遣保健師の目安が役立ちそう。
- ・大災害時だけではなく、寒波や猛暑時など、支援を必要とする状況の中で役立ちそうだと思う。
- ・それぞれ自治体の体制により、違いはあるものの、必要と思われる項目は網羅されていると思う。このような媒体があれば、本日のような研修に活用でき、ひいては発災時に役立つと考える。

不十分の意見

○マニュアルとの違いが不明確

- ・マニュアルとどちらがうのかわからない。このボリュームでは実際活用するのに際し、イメージがわきにくいのでさらに説明がされるとありがたい（もう少し文章化していただきたい）。
- ・自治体のマニュアルは各々であると思うので、保健師活動のマニュアル、本市なら市や区の防災計画とこの診断項目をどのように活用したらよいか、自分の中では落ちていません。
- ・地域診断とやるべきことのマニュアルの違いが分かりにくい、同じか？

○立場の違いとして、統括者とそれ以外のスタッフ等に分けて記載してもよいかと思う

- ・災害時への備えとして、視点を持つ部分では役立つか全員が行うものでない部分もあるので、統括者とそれ以外と分

けてもよいかと思う。

○分量が多いので、もう少し焦点化すべきである

- ・実際に使用するに当たっては、(チェック項目としてゆくには)項目が多い。もう少し簡単にすると使いやすい。
- ・量としてはA4版1枚サイズというのは適当と思う。
- ・保健活動のため地域診断が必要なことはわかるが、項目の範囲が広すぎて、情報収集に時間がかかりすぎるのではないか、ライフラインやリソースアセスメントについては、区や市単位でもまとめていることと考えられる。災害時に本部に集まる情報との分別が必要ではないか。
- ・目的には派遣要請の要否などが目的となっているが、その後のアセスメント項目はこんなにたくさん必要なのか？
- ・県の災害時、被災市町村支援の為の診断項目という意味が大きく、これら項目全てに回答するかと思うと疲れる。平時でも県から情報を求められる。有時にエネルギーを住民の為に注げるしくみ作りを期待する。

○項目の重複を避けるなど精選が必要

- ・複数に項目がまたがっているものもあるので、個別に具体化していったらどうか。
- ・発災時はチェックリストしか見ることができないと思うが、1つ1つの項目の詳しい説明(例えば全国保健師長会のマニュアルのどこを参照・でもよいので)があると、研修などで使いやすい。
- ・県庁、保健所、市町村別に自的な手段、アセスメント等があるが、重なっている部分と、それぞれが独自で行わなければならないこと(目的・手段・アセスメント)の整理ができるよい。それぞれが行ったことを情報交換していく際にも役立てられる。

○分かり易い平易な表現がよい

- ・発災時の時にもすぐ活用できるマニュアルとして手元にあるとよいと思うが、ぱっと見てわかるように表現を簡潔にするなどするとよい。
- ・目的別シートがあってもよいかもしれない。実用性のあるものにするためには、わかりやすい表現や主として大切となる項目の強調など欲しい。
- ・リソースアセスメントが何を求めているのかピンと来なかった。
- ・リソースアセスメントという言葉が分かりにくい。

○事例の提示があるよい

- ・平常時の備えに資する地域診断項目は、せめて例などがあれば参考になるのでは？
- ・具体例、東日本大震災の被災地の場合などがあるとイメージしやすい。
- ・地域診断項目について所属する自治体の場合、どうなるか実際にやってみないと地域が見えてこないと思った。
- ・具体的な例示があるとわかりやすい(チェックシートは分かりやすいものを望む)。
- ・アセスメント等の具体的な例示や事例が別冊子等でついていると、若手にも活用しやすくなると思う(自治体によっては伝承するベテランが不在であったり、スタッフの経験に偏りがあつたりすると思うので)。
- ・事例を設定したグループワークのような形で、一度項目と照らしながら活用してみないと実際に被災した現場で必要な情報が網羅されているのかわかりづらい。必要な項目がそろっているように思うが、使ってみるとあれが足りなかった、これはいるのかというのが出てくると思う。
- ・各項目だけを並べて記載すると、漠然となりやすいため、事例なども例記していただくとわかりやすい。
- ・この項目を元に事例等あれば紹介してほしい。

○地域診断項目におとしこめるよう具体的に表現してもらえると、イメージがわかりやすい

- ・地域診断項目におとしこめるよう具体的に表現してもらえると、イメージがわいて各市町と共同作業ができるのでありがたい。例でもよいので、示してほしい。
- ・発災時のチェックシートとして活用する場合、もっと具体的な行動が示されていないと、混乱の中また利用する人が経験年数の少ない人の場合チェックしにくいと思う。例)「県庁に伝える～必要量を判断する」ではその基準となる指標が項目化されているとよい。
- ・項目の提示なので具体的な表現を「目的」の欄でしているようにした方が文章を読んだ人に伝わりやすいと思う。
- ・平常時の地域診断とは違い、災害時特有の地域診断はとても重要である、具体的な項目があるとわかりやすく有効である。
- ・具体的に明記できる項目は具体的に。
- ・例えばライフラインなどを細かく分けてチェックできるようになっているとより使いやすい。
- ・項目が基本的に大きく、何を把握したらその項目が完了したとされるのかが個人によって判断が分かれると思う。
- ・チェック項目が大まかなので、各自方法を細かに確認する必要がある。例えば管内医療機関の被害、稼働状況等。
- ・概念的なので、キーワードとして具体的な言葉が少しあるとよい(例えば環境衛生の項目、トイレ、換気、消毒等)。
- ・被害が大きい(ex浸水のがけ崩れの有害薬品取扱い工場や放射線など)ことをイメージできる具体的な表現。
- ・ヘルスアセスメントは大まかな項目の内容であり具体的にあげるとわかりやすい。
- ・発災時のチェックリストとして使うのであれば、各アセスメント項目について具体的に何をというところまで明記されていると使いやすい。

- ・災害時のチェックシートならば、もう少し具体的な項目で一つの表にした方が活用できる。項目をさらに具体的に細分化して標記してもらえると即座に利用しやすい。
- ・保健所の職員の間で協働できる内容であるとうい。
- ・【情報集約・伝達ルート】について、手段やルート等、具体的な内容。
- ・市町村の項目について、詳細部分が示されると、活用できるものになる。

○体裁をアセスメントシートやチェックリストにする等の工夫を望む

- ・コンパクトにまとめてあるため、緊急の時に役に立ちそうだった。市町村や保健所などその部署のもののみとしチェックシートの様に使えたらよい。
- ・アセスメントの表として使えるよう書き込める方式にして、平常時のシミュレーションとして演習ができるシートがあるとよい。
- ・時期別のチェックリストとして活用していけるとよい。
- ・チェックリストのような形でかつようできるものになれば、混乱した状況で、マンパワーも限られた中、どの職員でもある程度普遍的な対応ができると思うので、非常に良いと思う。
- ・発災時チェックリスト方式になる事により誰でも行動がとりやすい。
- ・研修での活用はできると思いますし、チェックシートになれば実際の災害時にはとても有効だと思う。
- ・チェックシートならば、具体的な短文とし、関連する記録用紙、媒体などもセットにするとわかりやすい。
- ・チェックリストを早急に作り、実際に使えるようになると助かる。
- ・項目表現が説明用紙を見ないとわかりにくいことは、緊急時にチェックしにくい。
- ・災害時は混乱の中なので項目を明示し、チェックできるので良いと思った。

○レイアウトの工夫

- ・県庁・保健所・市町村ごとに目的・手段・アセスメント項目が記入されているが、同じ情報項目に関しては横並びで一目瞭然と視覚的に見えると同じ項目の情報のやりとりの流れがより分かりやすい。(例)「手段」の欄の「メディアを通じての情報収集」：共通のもの国・県・市町村各々特有のものなど。
- ・見やすいように行間をとるとよい。
- ・図を入れる等の形式を工夫すると見やすいように思う(exアセスメントの部分だけ形を変える等)。

○メディアを通じた活用

- ・メディアを通じて、具体的にライン、TV、ツイッターなどに表記される方がわかりやすい。
- ・市のマニュアルとのリンクができるページをつける。

2. 追加すべき内容について

○追加項目

- ・発災前の準備期の災害時地域診断項目、0期。
- ・保健所が関わりのある要援護者に関する情報について、台帳作成の有無や整理状況。
- ・本庁の手段欄に保健所からの情報収集を追加(保健師の参集状況、保健活動の状況等)。
- ・平常時の住民支援相談にも知っておくと活用できる項目(特に平常時の要支援者(難病等)の支援をしていくうえで) (体制の構築へ組織するなどの言葉はもっと具体化された方がよい)。
- ・支援者の人数等に関する判断等。
- ・平常時、地域の社会資源の把握。
- ・各情報の保管しておくべき場所の確認、望ましい場所の例示。
- ・平常時における災害対策の啓発活動状況(備蓄物品、医薬品等)要援護者への備え。
- ・避難所運営にあたる地域の代表者の名前や健康管理班を担う人の名前の把握。
- ・医療情報について、具体的な項目があるとよい。
- ・稼働状況の中に入ると思うが、被災地職員のシフト、休暇取得状況、あえて書いた方が意識にのぼる。
- ・地域で活動する多職種、ボランティア等の活動の評価。
- ・初災24～48時間の項目のリソースアセスメントの「住民同士の恭助力」「受援者力」は避難所がたくさん設置されると思われ、数か所の(もしかして数十か所)の避難所をまわると思われるが、どこまで把握できるかが難しいところもあり、どこまで確認できるとよいか?
- ・【住民の防災意識や行動】の具体として備蓄状況等、と。
- ・支援を希望していない要援護者の把握と避難方法。
- ・避難所・福祉避難所の開設場所を考慮した備蓄状況。
- ・【災害時の地域対応体制の準備状況】に、地域の災害時の医療体制。また協定を締結している団体に、医師会・歯科医師会との災害協定状況。
- ・特に時期Ⅰは情報の流れが重要と考える。
- ・県庁、市町村には「対策本部からの情報入手」とあるが、保健所にはないので、そこにも必要ではないか。
- ・時期Ⅲ 活動の評価まとめは県庁レベルでも必要だがHC・市町村レベルでも必要と思う。各単位でこれを行うことで次の活動につなげることができると思う。冊子レベルでなくても十分だと思うので、評価検証はした方がよいと思う。
- ・住民の災害時行動の主体性・自立性(予測、ハザードマップ、避難所開設場所の認知度等も1つの目安)。

- ・平常時にどれだけ保健所と市町に関係性がとれているか、又、業務分担の一方で地区担当の視点でどれだけ考えることができるか。日頃のアセスメントの質を高めるため、管内市町との協議の場で活かしていきたい。
- ・発災時従事する職員のヘルスケアはとても重要だと思うので、こういうマニュアルにも従事職員に対する項目を入れておく必要性を感じている。災害が起こったら、従事者の状況は後回しになってしまうので。

○政令市バージョンの作成

- ・政令市として活用する際に保健所市町村という分け方でしかも両者同じような内容の部分が多く、実際の場面で使いにくい。昨今、政令市や中核市が増えている現状をふまえたマニュアルにして欲しい。
- ・政令市も多数あるので、政令市版も作成して欲しい。
- ・チェックリストとして使用する場合を考えると、政令市版もほしい。
- ・政令指定都市バージョンもあると嬉しい。
- ・指定都市の場合のパターンもあるとよい。

3. その他（自由意見）

○地域診断について

（災害時地域診断の必要性）

- ・発災直後は職員も混乱するが、常に個別対応に追われるのではなく、地域全体を把握し、対策を立てたり、必要などころに人員を派遣したり、地域の人材を活用することを考えることも重要である。
- ・数少ない保健師でどこまでできるかと思った時に、地域診断をして支援者へ伝えることができる。これができるのは市町村の保健師かなと思った。

（地域診断の目的）

- ・地域診断が大事であるとは分かっているが、「何のために」という視点を持った上で実施しなければいけないと改めて感じた。
- ・漫然と目の前のことをやるのではなく、保健師として何のために何をするのかを考えていきたい。

（地域診断を行うための条件）

- ・短い時間の中で、多くの情報をとらないといけない。刻々と変化する状況をリアルタイムに把握し、それに対応する保健活動を検討・実施していくには、やはり人材が必要だと感じた。
- ・地域診断するにあたり、何を考えたらよいか、困ってしまっているため、項目から考えられることは、助かる。
- ・どんな時でも地域として考えることをあたりまえの事とは思いますが、しっかり認識した。
- ・災害における取り組みのイメージを職員で共有するのは大切であるが、地域住民ともイメージを共有しておくことが大切と感じた。

（地域診断項目の検証）

- ・災害があったところを支援した人がどんな地区の情報があったらよかったかの声が反映されていると良いと思う（人の派遣要請、災害保健活動の見通し等）。
- ・地域診断の結果をどう評価するのか迷うかもしれない。

（平時からの地域診断）

- ・平常時の地域診断をする時には、災害時を想定に入れ、必要な情報を集め分析することが大切だと思う。
- ・日頃の業務で地区診断、課題の明確化が重要であることを再認識している。
- ・平常時の備えに資する地域診断の重要性を感じた。
- ・常時の地域診断に災害の視点も加える必要があると思った。特に連絡先も含めたリスト作成は必要と感じた（連携を取れているのか振り返りにもなるため）。
- ・平時からの体制のあり方、職員のスキルアップ、情報共有のあり方等を見直すのに非常に参考になった。
- ・地域診断を普段から整理していくことが災害対応にもつながるためにも大切だと実感した。
- ・日常業務の中で行っていることが災害時の地域診断の根拠となると感じた。
- ・発災後の予測も踏まえて、地域診断をし、地域への理解を深めておくことが大切と考えられた。
- ・日頃の備えが大切で、普段からできていないことは発災時にもできない。
- ・研修でも学んだように、災害時のための地域診断ではあるが、平常時の地域診断にもつながる内容だと望ましいと感じた。
- ・常に災害からの視点で地域をまわりたいと思う。
- ・平時も災害時も保健師は常に地域をアセスメントし、健康課題解決をしながら、地域の健康水準を向上させていくべきことを改めて認識した
- ・普段の業務地区診断をすることが、災害時の地域診断にも多くつながる。
- ・平常時より災害時にどういう活動が必要となるかイメージした上で、地域診断を行っていく必要があると感じた。普段から地域とのつながりを密にしておくことが災害時保健活動をするうえでの強みになるものと考えた。
- ・平常時の地域診断は重要であると改めて感じた。
- ・平常時にどれだけ情報収集をして準備しておくことができるかが重要だと改めて感じた。
- ・日頃より、災害時に備えた地域診断をしておくことで、いざという時に冷静に対応できると思う。
- ・災害発生時は、現場に追われ、目の前の事で一杯になってしまうと思うので、地域診断項目を・平常時の備えや日頃の活動の中に位置づけができればよいと思った。
- ・非常について通常より考え、備えておくために保健師としておさえておくべきこと、災害を念頭に置きながら、活動

中にできること、ネットワークしておくことなどを感じた。

・「災害用」という考えはやはり難しく、普段の診断の上にプラスとして災害があると考え。普段を踏まえて、特別時はさらにどうするか、イメージし、一方として文章化すると書く保健師の自覚や意識向上につながると思う。

・今回の診断項目を参考に自分の担当学区を診断していく必要があると思った

・平常時の地域診断のもとに、保健師活動の計画実施、関係機関連携ができていれば、災害時にも力を発揮できると確認できた

・重要性も必要性もあると思う。通常業務の中で危機管理の視点を持ちながら、考えていきたい。

・災害時の支援活動は平常時の保健活動が重要である。時期Ⅱの保健所の地域診断について、管内市町村の住民の健康問題や防災意識や行動についても保健所も共にアセスメントして、支援計画を考えていけると良いと考える。

・平常時の地域診断は重要だと思っている。救護所が各校区に設置される予定であるが、せめて、人口ピラミッド程度は視覚的な資料として作り、顕在する問題と人口構成から予想される健康問題を予め予想し救護所職員の配置等を考えていかなければと思っているが出来ていない。

・地域について、習熟していることが災害時にも非常に意義深いことである、という考え方は目からウロコであった。

私の従事場所は比較的大きい市ではあるが、地域についてもう少し理解を深めたいと思う。

・現在、分散配置であり、リーダー的存在になり、地区に関わることも少なくなる中で計画や施策に参画することが多くなることに不安を感じる（地区診断をしていない。感覚的なイメージでしか対応できない）。

（地域診断の習慣化）

・活動を評価し次の計画をたて直すためには、活動に埋没するのではなく、活動から地域診断をやっていくことを習慣化することが大事と思った。

・日頃から保健師活動して、地域診断をする習慣をつけていれば、災害時でも当然地域診断はできる。

・昨年市として「地域診断」を各地区担当保健師が実施しているが、災害を切り口とした地域診断の結果を意識してとらえていなかった。災害時の被災市町村支援における地区診断項目は大変参考になった。今後の活動に活かしていきたい。

（記録様式）

・各市町村の情報保健所、県へ流れていくというように、項目が整理され、用紙等統一したものがあればよい。

・診断項目は、統一した基準として必要。

（地域診断の能力向上）

・保健師の段階別研修で、地域診断の基本的な部分を教育していく必要性を感じました。

・地域診断は基本的で大切なことだが、今からというところであるので、皆で取り組んでいきたい。

・“危機意識”と言われるが、目の前の業務のみをこなすだけで災害関連の対策業務に本気でとりくめていない。今回は良いヒントを多く得たので参考にしていきたい。

・基本的なことについて考えた。キチッとやるべきことを考察し、何をすべきかを考えて行きたいと思う。方向性が少し見えてきた。

（課題）

・日々の活動の中に災害という視点を入れることで、平常時の活動が、災害時の活動に繋がっていくと思った。

・平常時から地域の状況について整理しておくことが大切なのはわかっているものの、準備ができていない実情。

・管内の状況として、数値等とり入れてみたい。

・必要性はわかるが、全職員で実施すること、共有することが難しい現状。

・日頃の業務見直しも不可欠と感じた。

・保健師も若い人が増え、災害に対する感度の育成も必要と思う。地域診断で育成となるかは、すぐではないかもしれないが。

・職場でも可能なら、定期的に時間を作って、具体的な確認（モノや情報のありか、連絡網、場面を想定したシミュレーション）等できるとよい。地域と連携して災害に備えた準備を進める。

・クリティカルパスの様な形式だと今の活動が、最終的な目標を達成するために、どのような役割なのか確認しやすいと思った。

・日頃の活動の中で職場の中で共有意識を持つことが大切。

・災害発生後、職員や住民が安全を確保できるよう、また、安心して生活できるよう誰がその場に直面しても同じような行動がとれるよう項目化することが必要だと思った

・要援護者の情報を災害時に直ぐに出せるか、リスト等の整理と管理方法の工夫が必要だと思った。

・福祉や医療との連携をどうとっていけばよいか介護保険導入後関わりが少なくなっている現状がある。

・災害時の意識をもって関係機関と普段から連携することは大切と思う。

・日ごろから保健師のチームワークをよくしたい、災害時にしこりとならぬよう。

・今日の研修のようにまとまって考え、さらに何人かで聞いておくことが力になると思った。

・保健師だけでなくいろいろな人と話してその地域を見ることが大切と思った。

・自己満足におわらず、まず職場内他関係部署とも共通認識をすることが必要不可欠。保健師だけが・・・と言われないうために、住民や自分のために。

・普段地域で活動している保健師として必須であり、求められていることなのだと考えている

・重要性・必要性は認識している。それをいつだれが行うのか、人員の余裕がない。市の動きは、人口減少対策→少子化対策→育休の充実が主で、現場は育休の欠員を支えるのに、アップアップしている。予算を確保し取り組む人と時間の確保が必要。

- ・日ごろの人間関係、他職種の連携、ケースワーク、地域診断等がすべて災害時の活動のもとになるという視点をもって、明日から毎日を積み重ねていきたい。
- ・災害が起きたら自分はやれるかという不安が大きくあったが、多少どう動けばよいか、見えてきたように思う。被災自治体職員自身のケアの大切さについては余り触れたことがなかったので、精神的なケアの大切さも知ることができた。
- ・それぞれの自治体での確認が必要、保健所ごとでもまちまち、一職場での判断ではないので。
- ・関係者間の共通理解を深めておくことが公私にわたり必要だと思った。
- ・必要性重要性は十分認識できた。平時から具体的に何を優先順位をつけて情報収集していくのか、早いうちに検討し実施していきたいと考える
- ・保健師のみが日頃考えていく内容だけではない。他職員との関係づくりが大切。
- ・分散配置されている中で、手段である管内市町村との定期的連絡会の開催は難しいが、意識して開催しなくてはならないと思った。
- ・健康危機管理連絡会（協議会）には、担当課長が出席する割合が高いが、統括的立場の保健師の参加が必要であると思った。
- ・目的である連携体制を構築しておくことで、災害時のみならず平常時のケース支援にも役立つ。
- ・災害時の行動を具体的にまとめておくことが、災害時の行動につながるのではないかと感じた。
- ・日常業務の中で災害時を想定して活動することが少なかつたため、災害時を見越しておくことの必要性を感じた。
- ・災害時を意識した体制づくりを日常業務の中で行っていると感じた。
- ・東日本大震災後は危機管理の必要性をしみじみと感じていたのに、時が経過する中で、日々の業務に追われ、危機管理のことが後回しになっていたと、地域診断項目を見て反省した。
- ・家庭訪問等地区活動を通して地域診断項目に目を向けていきたいと思う。
- ・定期的に実施している防災訓練の際に、災害時対応についてもっと周知する必要があると思う。
- ・施設毎の災害時訓練は実施しているが、市町村全体の訓練の実施等、平常時からの体制整備が重要であり、必要。
- ・防災計画の中で保健師は救護班の役割となっているが、地域診断項目を見て、防災を担当することや、他の課と連携して把握していく必要性を感じた。
- ・本庁と支所との情報交換・共有が大切だと感じた。
- ・地元の医療機関を含めた関係機関との連携が重要。
- ・目的である連携体制を構築しておくことで、災害時のみならず平常時のケース支援にも役立つ。
- ・災害経験のない市民の災害対応に対する意識をどう強化していったらよいのか、不安をあおってもいけないしと、悩む。
- ・災害時もPDCAサイクルの活動が重要と考えるので、地域診断なくしてプランなし、と思う。
- ・日頃から足を運んで、足で稼ぐことが必要だと思った。
- ・災害時は対応できる資源の把握が大切だと思うため、役に立つ。
- ・必要などころに必要な支援をするというのは、限られた人材を派遣するには大きな課題と思われる。公平に、効率的に市町村もうまく支援をうけられるような体制づくりの視点をもっておこななければいけない。
- ・市町村支援が必要になる時突然の支援になることが想定され、日頃から土地勘というか保健所管内の地理的なことも含め、県の方も知っていたら強みになる。
- ・想定される災害（津波、火山、etc・・・）について、その対応方法EMIIS、災害支援者ネットワークを皆で共有し合いますべての保健師が開けられるように日頃から研修する時間をつくる等、情報を一つに限らずライン、ツイッター等こなせるようにしておきたい。

○その他

- ・地域診断項目のイメージは、あるべき姿（目的）のための計画をかくものと認識していた。その意味でいうと目的・手段にかかっているものは様相が異なると感じた。「地区診断項目」とする表題がそぐわないのではないか。
- ・市や区で把握する避難住民情報、道路、ライフラインの状況と保健部門が把握する医療情報を使って地域診断できると思うので、「地域診断」だけ独自にする必要があるのか疑問である。情報は一元化するべきと思う。

表 4-1. 災害時の被災市町村保健活動における地域診断項目 チェックシート 時期Ⅰのみ抜粋して示す
(都道府県(本庁)の保健師版)

※以下の、「県」の表記は、都道府県それぞれの広域行政単位を意味するものとします。

時期Ⅰ：発災直後の迅速評価項目 (時期の目安：発災24～48時間(状況により1週間以内))

記録日：(年 月 日) 記録者：()

地域診断の目的	
<input type="checkbox"/> 派遣者要請の要否と範囲(県内、隣接県あるいは近県ブロックエリア、全国)を判断する <input type="checkbox"/> 県内保健所及び県下市町村からの応援保健師数を把握する <input type="checkbox"/> 県病院部局への支援看護師の要請、県看護協会への災害支援ナースの要請の要否を判断する <input type="checkbox"/> 被災地の緊急医療確保(薬剤・透析医療等)のための調整の必要性を判断する	
情報収集の手段	
<input type="checkbox"/> 現地入りした支援者からの情報入手 <input type="checkbox"/> メディアを通じての情報収集 <input type="checkbox"/> 対策本部からの情報入手 <input type="checkbox"/> 衛生電話による情報収集 <input type="checkbox"/> 現地視察(本庁の情報収集チームへの参加)	
地域診断項目	
地域 ア セ ス メ ン ト	<input type="checkbox"/> ライフラインの被災状況 <input type="checkbox"/> 県内の被害状況 <input type="checkbox"/> 被災地の自然・社会的環境 <input type="checkbox"/> 全県下の救護所・避難所・福祉避難所の設置状況 <input type="checkbox"/> 全県下の隣接市町村への避難者受入状況】避難所の設置状況 <input type="checkbox"/> その他()
ヘル ス ア セ ス メ ン ト	<input type="checkbox"/> 緊急対応に必要な健康・医療の問題 <input type="checkbox"/> その他()
リ ソ ー ス ア セ ス メ ン ト	<input type="checkbox"/> 保健所の稼働状況 <input type="checkbox"/> 市町村の自治体機能 <input type="checkbox"/> 被災地の保健所・市町村における保健師の被災状況・稼働状況、リーダーの有無 <input type="checkbox"/> 医療機関の稼働状況 <input type="checkbox"/> 派遣支援チームの稼働状況 <input type="checkbox"/> 県当局の体制 <input type="checkbox"/> 自衛隊による支援活動状況 <input type="checkbox"/> DMATによる支援活動状況 <input type="checkbox"/> その他()

表4-2. 災害時の被災市町村保健活動における地域診断項目 チェックシート 時期Ⅰのみ抜粋して示す
(保健所の保健師版)

時期Ⅰ：発災直後の迅速評価項目（時期の目安：発災24～48時間（状況により1週間以内））

記録日：（ 年 月 日） 記録者：（ ）

地域診断の目的	
<input type="checkbox"/> 県庁に伝える保健師応援人員要請の必要量を判断する <input type="checkbox"/> 被災市町村に対する保健所の支援方針を判断する <input type="checkbox"/> 県庁に伝える緊急医療要請の内容を判断する <input type="checkbox"/> 要援護者の施設受入体制整備の必要性を判断する <input type="checkbox"/> 継続すべき業務を判断する <input type="checkbox"/> 被災市町村に対する応援の量的及び質的な充足状況について確認し、応援人員を調整する	
情報収集の手段	
<input type="checkbox"/> 現地に出向いての情報入手 <input type="checkbox"/> 地域活動あるいは市町村リーダー保健師の補佐を通して行う情報収集 <input type="checkbox"/> 関係者（派遣チーム等現地支援者）からの情報入手 <input type="checkbox"/> 住民への調査による情報入手 <input type="checkbox"/> EMIS（広域災害救急医療情報システム）からの情報収集 <input type="checkbox"/> メディアを通じての情報収集 <input type="checkbox"/> ミーティングによる情報収集	
地域診断項目	
地域 ア セ ス メ ン ト	<input type="checkbox"/> ライフラインの被災状況 <input type="checkbox"/> 管内の各市町村の被害状況 <input type="checkbox"/> 避難者を受け入れた隣接市町村の状況 <input type="checkbox"/> 救護所・避難所・福祉避難所の設置状況 <input type="checkbox"/> その他（ ）
ヘル ス ア セ ス メ ン ト	<input type="checkbox"/> 要援護者に必要な医療・介護の体制（避難所及び在宅） <input type="checkbox"/> 避難者の健康状態及び健康管理状況 <input type="checkbox"/> 各避難所の環境衛生 <input type="checkbox"/> その他（ ）
リ ソ ー ス ア セ ス メ ン ト	<input type="checkbox"/> 管内市町村の自治体機能 <input type="checkbox"/> 当該保健所の稼働状況 <input type="checkbox"/> 管内市町村の保健師・その他職員の被災状況・稼働状況 <input type="checkbox"/> 要援護者の対応に必要な医療・介護の体制 <input type="checkbox"/> 管内医療機関の被害・稼働状況 <input type="checkbox"/> 管内福祉施設の被害・稼働状況 <input type="checkbox"/> 派遣支援チームの稼働状況 <input type="checkbox"/> 必要物資と備蓄等の確保状況 <input type="checkbox"/> 市町村支援に際しての当該保健所の強み <input type="checkbox"/> その他（ ）

表4-3. 災害時の被災市町村保健活動における地域診断項目 チェックシート 時期Ⅰのみ抜粋して示す
(市町村の保健師版)

時期Ⅰ：発災直後の迅速評価項目（時期の目安：発災24～48時間（状況により1週間以内））

記録日：（ 年 月 日） 記録者：（ ）

地域診断の目的	
	<input type="checkbox"/> 県へ伝える保健師応援人員要請の必要量を判断する <input type="checkbox"/> 受援（外部支援者の受入れ）体制を構築する <input type="checkbox"/> 要援護者への対応及び2次的健康被害予防のために必要な保健活動体制を組織する <input type="checkbox"/> 関係者との連携体制を構築する <input type="checkbox"/> 必要な物資の要求について判断する <input type="checkbox"/> 継続すべき業務を判断する <input type="checkbox"/> 次のフェーズに活動を移行する時期を判断する
情報収集の手段	
	<input type="checkbox"/> 対策本部からの情報入手 <input type="checkbox"/> 地元の関係者からの情報入手 <input type="checkbox"/> 住民への直接的支援活動の中からの情報入手 <input type="checkbox"/> 住民への調査による情報入手 <input type="checkbox"/> 被害甚大地域の地区担当保健師からの情報把握 <input type="checkbox"/> メディアを通じての情報収集 <input type="checkbox"/> ミーティングによる情報共有
地域診断項目	
地域 ア セ ス メ ン ト	<input type="checkbox"/> ライフラインの被害状況 <input type="checkbox"/> 市町村の被害状況・被害甚大地域の特定 <input type="checkbox"/> 健康に影響を及ぼす可能性のある施設の存在及びその影響 <input type="checkbox"/> 救護所・避難所・福祉避難所の設置状況 <input type="checkbox"/> 隣接市町村への被災者の避難状況 <input type="checkbox"/> その他（ ）
ヘル ス ア セ ス メ ン ト	<input type="checkbox"/> 各避難所において支援の緊急性・継続性を要する援護者の把握 <input type="checkbox"/> 避難者の健康状態及び健康管理状況 <input type="checkbox"/> 車中・在宅の被災者の健康状態及び健康管理状況 <input type="checkbox"/> 各避難所の環境衛生 <input type="checkbox"/> その他（ ）
リ ソ ー ス ア セ ス メ ン ト	<input type="checkbox"/> 市町村の自治体機能 <input type="checkbox"/> 当該市町村保健師・職員の被災状況・稼働状況 <input type="checkbox"/> 医療・保健活動の提供体制 <input type="checkbox"/> 市町村内の医療機関の被害・稼働状況 <input type="checkbox"/> 市町村内の福祉施設の被害・稼働状況 <input type="checkbox"/> 保健医療福祉の連携状況 <input type="checkbox"/> 情報・活動の記録化及びその活用状況 <input type="checkbox"/> 住民同士の共助力 <input type="checkbox"/> 必要物資と備蓄等の充足状況 <input type="checkbox"/> 救護所・避難所の配置の適切性 <input type="checkbox"/> 受援（外部支援者の受入れ）力 <input type="checkbox"/> 支援人材の発掘 <input type="checkbox"/> その他（ ）

研 究 成 果

研究成果の刊行に関する一覧表レイアウト

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
—							

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
坂元昇	大規模災害における広域（都道府県）支援体制—東日本大震災の自治体による保健医療福祉支援の実態と今後の巨大地震に備えた効率的・効果的支援のあり方について—	保健医療科学	Vol.62, No.4, 第2号	390~404	2013年
宮崎美砂子	東日本大震災で被災した自治体保健師の災害時保健活動における地域診断の内容と情報収集方法	日本ルーラルナースング学会誌	第10巻	41-50	2015年

(特集：大規模災害に備えた公衆衛生対策のあり方)

< 総説 >

大規模災害における広域（都道府県）支援体制
—東日本大震災の自治体による保健医療福祉支援の実態と
今後の巨大地震に備えた効率的・効果的支援のあり方について—

坂元昇

川崎市健康福祉局

**Nationwide support systems for large-scale disasters:
survey of public health medical assistance teams deployed
by all local governments to areas affected by the Great East Japan
Earthquake and proposals for a more efficient
and effective support system for large scale disasters**

Noboru SAKAMOTO

Health and Social Welfare Bureau, Kawasaki City

別 刷

保健医療科学 Vol. 62, No. 4, pp. 390~404

2013